

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮東中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	課題:個々のつまづきを早期に発見し、基礎的・基本的な知識を全生徒が確実に習得できる指導体制の構築。 学力向上策:ICT端末の学習履歴を分析し、生徒の特性や学習進度に応じて指導方法や教材を柔軟に調整することで、基礎・基本の確実な定着を図る「指導の個別化」を進める。また、AIドリル等を活用し、生徒が興味・関心や理解状況に応じて学び方を選び主体的に取り組む時間を確保することで、学習を深める「学習の個性化」につなげ、学力向上を図る。
思考・判断・表現	課題:対話を通じて多様な視点を取り入れ、根拠に基づいた論理的な文章を書く力・発表する力の育成。 学力向上策:デジタル教科書や共同編集機能を活用し、他者の考えをリアルタイムで共有・比較する場面を全教科で設定する。「課題解決に向けた話し合い」を授業の核に据え、仲間と協力して最適解を導き出す活動を通じ、思考力・表現力を相互に高め合う「協働的な学び」を充実させる。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題>基礎的な知識・技能はすでに身につけているが、「文脈に即した適切な漢字を使う」や「整式の加法と減法の計算の質問」の項目での正答率を下回っていること、②学力が二極化していることが課題である。 <指導上の課題>生徒の学習に向かう意欲、復習の習慣を得られるよう、授業改善を継続して取り組むことが課題である。	⇒ 授業及び家庭学習においてスタディサプリ等を活用し、個々の定着度に応じた反復練習に取り組みせるとともに、ステップアップを意識した授業を展開し、習熟に努める。【単元終了時等】また、生徒の学習履歴等に基づき、適宜アドバイスをし、テスト計画の作成や、家庭学習等を活用した取り組みを行う。【学期に2回程度】
思考・判断・表現	<学習上の課題>課題解決に向けて自分で取り組むことや友達との話し合いから考えを深めることはできているが、学習した内容を見直し次の学習に繋げる力が弱いことが課題として挙げられる。 <指導上の課題>生徒自身が考え、説得力のある思考・判断・表現に繋がる授業改善に取り組むことが課題である。	⇒ 授業の中に話し合い活動やスピーチ活動を積極的に位置づけ、他者に自分の考えを表現する力の向上を図る。また、単元終了時に振り返りを行い、自身の課題を考えさせ、次の学習につなげられる場を多く設定する。【単元計画の中で随時実施】

全国学力・学習状況調査 <小6・中3> (4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	スタディサプリやドリルパークを活用した学習を進め、継続的な反復練習を行う習慣が定着した。これにより基礎学力の維持・向上には成果が見られたが、二極化の解消に向けて、個々の習熟度に合わせた課題提示については、さらなる工夫が必要である。
思考・判断・表現	B	授業内にスピーチ活動や小グループでの話し合いを積極的に取り入れ、自分の考えをアウトプットする機会を増やした。他者の意見を聞き、自分の考えを広げる姿勢は育ちつつあるが、それを論理的な文章として記述する「表現の質」の向上については、次年度の重点課題となる。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語、数学ともにすべての設問で県や国の平均と比較して平均正答率が上回っている。
思考・判断・表現	国語、数学ともにすべての設問で県や国の平均と比較して平均正答率が上回っている。 国語において、文章の構成や展開について根拠を明確にして考える問題と読み手の立場に立って表記を確かめて文章を整える問題の無回答率が高い。また、書く力を育てるための型や練習を段階的に取り入れ、心理的ハードルを下げながら日常的に書く活動を行う。 数学において、事象を数学的に解釈し問題解決の方法を数学的に説明する問題とある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する問題の無回答率が高いため、数学的な見方や言語表現の型を段階的に教え、考え方のプロセスを可視化・共有する。

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	成果:第1学年・第2学年ともに、国語、社会、数学、理科の全教科において市の平均正答率を上回る結果となった。特に数学の「数と式」領域や、理科のエネルギー分野等において、基礎的な知識が確実に定着していることが確認できた。 課題:国語において、文脈に即して適切な漢字を使用する設問や、数学における特定の計算技能において、一部に課題が見られる。また、正答数の分布から学力の二極化傾向が継続しており、基礎層のさらなる底上げが求められる。
思考・判断・表現	成果:数学において事象を数理的に解釈する力や、社会において資料から情報を読み取り考察する力は、市全体と比較しても高い水準にある。 課題:国語において、複数の情報から必要なものを選び出し簡潔にまとめる力(中1)や、根拠を明確にして資料を引用し自分の考えを記述する力(中2)に弱点が見られる。理科においても、実験結果から法則性を導き出し、言葉で説明する表現力に改善の余地がある。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	スタディサプリの活用については、各教科で単元の復習や長期休みの課題として設定するなど個に応じた反復練習として活用ができています。また、学力の二極化については、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて、ICT学び方改革推進を中心に実践例などを校内で共有しています。	変更なし
思考・判断・表現	B	話し合い活動において、ICTを活用することで主張が苦手な生徒の考えやより多くの他者の考えを知るなど積極的に位置づけができています。また、単元終了時の振り返りにおいては、自身で考えさせる以外に生成AIを活用することでより深く考えさせている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)